インターネット版

# 白夜

第 8 号

2022 年 7 月

北海道スウェーデン協会

*北海道でも、７月早々に猛暑になったと思ったら、湿度の高い日が続いた挙句に本州の梅雨のような大雨になって、というこの異常な天候も気候温暖化の影響でしょうか。*

*さて、今回の白夜は、このような不可解かつ不快な天候とは無縁の涼しい話題、爽やかな話題を中心に、当協会の会員の皆さんがご執筆いただいた原稿を掲載いたします。*

## ワールドモーグルキャンプに参加しました！

**鈴木岳**

今年の 4 月末にスキーのモーグル競技、北京オリンピック男子メダリストたちが勢ぞろいした講習会イベント、ワールドモーグルキャンプが札幌手稲スキー場でありました。スキーモーグルはコブをいち速く滑り降り、途中に二回ジャンプするスリリングな競技です。私は高校生の頃までコブを我流で滑るのが大好きでしたが、どうにもかっこよく滑り降りられるようにはなりませんでした。その後はテレビで見る専門になりました。スキーを持っていく面倒くささもあり、スキーをすること自体が家族にせがまれ、年に２、３度行く程度になりました。30 歳代から新型コロナが来た 2 年前までカーリングで勝つことを目標に、ジムで体力づくりを続けてきました。ところが新型コロナ流行のせいで屋内スポーツに行き難くなり、感染リスクの低い屋外競技であるスキーやランニングに挑戦することになりました。コブ滑りを Youtube で研究しながら、夜間の大人のコブ教室に通い、ちょうど夢中になっていたこともあり、この催しの後援をしつつ参加しました。北京で金メダルに輝いたスウェーデンのバルテルバルベリ Walter Wallberg（一般的に英語読みのウォルターウォルバーグと呼ばれています）、銀メダルはカナダのキングスベリー、そして銅メダルの堀島行真らに加えて、特別ゲストに日本女子のトップ、川村あんり（W 杯優勝）が花を添えた大変に豪華なイベントでした。

ゲストの四選手

後援していたこともあり、その前夜祭で選手たちと飲む機会がありました。まずは同じ席に長野五輪選手だった三浦豪太（父は三浦雄一郎）さんがいてびっくりしました。さらに目の前に前人未到の世界選手権 10 連覇を成し遂げ、絶対王者と呼称されるカナダのキングスベリーと日本男子最多の世界大会優勝を誇る堀島行真が座っていました。現在、堀島はもっともキングスベリーに迫ってきた選手で、私の中で眠っていたコブ滑りへの憧れを再度呼び起こしてくれたヒーローです。でも、目の前に座っていた二人は物静かで気さくな青年たちでした。二人で仲良くポケモンとムシキングのキャラクターを自慢しあっている光景が可愛かったです。ライバルたちも競技の外では仲良しなんですね。キングスベリーが教えてくれたオフの過ごし方が印象的でした。「休みの時は自分の大会ビデオを見返して、常に反省をしている。そして次の大会に生かす。」と話されました。この競技への真摯な姿勢、上達への情熱の継続こそが、10 年以上も王者であり続ける秘訣なのだと感心しました。堀島選手には銅メダルでの滑りで２度ほどコブに弾かれそうになった時の様子を尋ねました。するとものすごいスピードで滑り降りている最中でも、一瞬一瞬の体の微細な変化を感じ取り、体を修正した様を

伺い舌を巻きました。どうも、体感時間の流れが常人とは異なるようで、タイマーが 0.01 秒と示す時間を、彼らは 1 秒位に感じるのかもしれません。堀島選手はスキー講習でも優しく丁寧に教えてくれ、競技中の迫力ある滑りとは対照的で、テレビでみた通りの紳士でした。

堀島、キングスベリ両選手と金、銀、銅メダル

席の入れ替えで川村あんりとバルテルバルベリにお話しを伺いました。この講習会に参加したかった目的の一つがバルベリと会うことでした。やはり、スウェーデンに縁があった私としては、キングスベリーと堀島の金メダル争いという下馬評を覆し、スウェーデンモーグル界初のメダル、それも金メダルを持ち帰ったバルベリと話をしてみたかったのです。

バルベリ、川村両選手と私

まず、あんりちゃん（まだ 17 歳の高校生）に上半身が全くブレずに、まるでエスカレーターでおりてくるようにコブを滑ってくると賞賛し、大舞台で緊張することはないのかと尋ねました。すると「私は小さい頃から人の 100 倍以上も練習を重ねてきました。スタート台の下の方（待合）では緊張するんですけど、スタート台で緊張することはないですね。」と自信に満ちた返事を聞き驚きました。まだ１７歳とはとても思えぬしっかりした返答だったからです。先ほど競技会を引退したフィギアの羽生結弦選手にも通ずることですが、10 歳代で結果を出さねばならない瞬発系競技では、いかに子供達の心持ちをそこに持っていくかが鍵になります。スポーツメンタルトレーニングをどう育成に生かすかに関心がある私には、あんりちゃんはスポーツ選手だったご両親にしっかりメンタルもトレーニングされてきたのだろうと思われました。カーリング界はアスリートとして年寄りの域になっても五輪に出られる特性があるためか、若手のメンタル育成が瞬発系競技に比べてのんびりなのが課題です。

私とバルベリ選手

次にバルベリにスウェーデン語で話しかけてみました。バルベリは 2000 年生まれのミレニアムボーイ（息子と同じ年齢）で 22 歳。テレビで見る以上に金髪の美男子で、はにかむ笑顔が可愛い青年でした。スウェーデン人をはじ

め、北欧人にスウェーデン語で話しかけるとまず喜びとともに驚かれます。彼らは英語もできますが、やはり母国語で話すことが一番楽なようで、緊張がほどけ、一気に距離が縮みました。彼は Bollnäs ボルネース生まれで、そこでスキーを父の手ほどきで始めました。しかし、ボルネースはウプサラよりやや北のバルト海側で山がないはずです。「そんな平地で、なんでスキーが上手なんですか？」と尋ねると「父が大好きで始めたんだけど、自分が上手になってからは 10 歳の頃に、一家でスキーリゾートのある Åre オーレ(ノルウェー国境沿いにある山岳地帯)に引っ越したんだ。そこでモーグルに夢中になりました。」と家族の応援が一番の成功の秘訣だったようです。実はかれはオリンピックの 2 年前に前十字靭帯を切ってしまい、手術後 2 年間も競技会から離れていました。オリンピックの年にカンバックを果たし、今回の金メダルを獲得しました。まさに奇跡的な金メダルに思えます。怪我の時期というのはメンタルトレーニング、イメージトレーニングを強化することで怪我をする前よりも強くなることがあるんですね。こんど「Åre にきてください」と誘ってくれたので、行っちゃおうかな。それよりも「次のイタリア五輪で、また会おうね」と返したら「Det gör vi!（そうしよう）」と約束してくれました。私にとっては移住まで考えたスウェーデンですから、今もスウェーデンに友達を持てるのはとても嬉しいことです。

バルベリ選手のジャンプ

堀島行真選手のバックフリップ

キングスベリー選手

上手く撮ってもらった私

モーグル競技は変化があって華もあり、見ていて大変楽しい競技です。そして、なんと現在最も強豪の層が厚いのが日本選手団です。カーリングとともに今後のモーグルにもご注目ください。

*ここからは、横山理事長による当協会の活動の現状の総括、及び久々の開催となったイベントのご紹介をしたいと思います。*

## 2022 年度上期の北海道スウェーデン協会の活動と今後の展望

**理事長　横山　隆**

2020 年度、2021 年度と開催することが叶わなかった北海道スウェーデン協会のリアル総会を、今年度は 5 月 27 日金曜日の夕方 17:00 から開発工営社会議室で開催することが出来ました。新型コロナ感染症の第 6 波が収まりつつあったちょうど端境期であったことも幸いしました。

総会議案の審議が滞りなく終わった後、会員の千葉華月 北海学園大学教授にスウェーデン・ウプサラでの研究生活についてご講演をいただきました。総会・講演会を終えた後、会場を移して懇親会に入り、20 名弱の参加された会員の皆様の自己紹介を含め、各個人のスウェーデンとの関わり、思い、情報交換などにより、大いに懇親を深めることが出来ました。特に、リアルな会合を持つことが出来なかったこの 2 年間に入会された新入会員の皆様のお話が新鮮に感じられ、これに触発された従来からの会員の皆様のお話にも力が入り、充実した情報交換には目を見張るものがありました。やはり、対面での交流のチカラを再確認した次第です。

翌 5 月 28 日土曜日、29 日日曜日に札幌で開催された「野間友貴＆荒ひろこ」両氏のフィドルとカンテレのコンサート（北欧民族音楽）を後援させて頂き、協会の会員にも聴衆として参加いただきました。両氏のスケジュールが既に決まっていましたので、総会での演奏は実現しませんでした。来年のコンサートは金沢市で開催、再来年は札幌市での開催予定とのことですので、事前準備をすすめ、再来年の総会とコンサートの日程を併せて、会員の皆様と札幌市民に広くコンサートを聴いていただきたいと考えています。

6 月 18 日土曜日には、創成川沿いのホテル「フェアフィールド・バイ・マリオット札幌」1 階の FIKA CAFÉ Lagom で行われた夏至祭イベントへ協賛すると同時に、スウェーデン料理の研究家でイラストレーターの見瀬 理恵子さんのイラスト展「SKA VI FIKA?」を主催いたしました。生演奏グループ frihet とのコンタクト、見瀬さんの作品輸送・会場展示に坂本常任理事に一汗も二汗もかいていただきました。深謝申し上げます。

7 月 17 日日曜日、イラスト展「SKA VI FIKA?」の最終日に、協会有志メンバーによる「茶話会」を FIKA CAFÉ Lagom で試行してみました。新型コロナ感染症第 7 波の兆しもあったことから、小グループで小 1 時間ほどのおしゃべりを楽しむ会と位置付けての開催でした。来札中の友人を同伴された会員もおられ、8 名の参加者で、スウェーデン・スウィーツを楽しみながら会話が弾みました。坂本常任理事には、閉会後の作品撤収のお役目が残っており、御礼の申し上げようもございません。有難うございました。

さて、新型コロナ感染症第 7 波が猛威をふるっており、今年度後半の活動が見通せない状況ですが、「茶話会」のようなこじんまりとした、出欠や会場の制約を受けない「ゆるい活動」を地道に続けていけたらと考えています。もちろん、目黒事務局長のお骨折りで、インターネット版「白夜」や東海大学の学生 浅野 千尋さん、河野 紫杏さんにデザインをお願いしています紙媒体「シェーナ」の発行を継続いたしますので、お楽しみいただけたら幸いです。

加藤 誠 会長亡き後の喪失感で、今後の北海道スウェーデン協会の体制を考えることができない日々が続いていますが、機関紙などの発行・茶話会のようなイベントを地道に積み上げて行くことで新しい風景が見えてくると信じ、今年度後半の当協会の活動の展望とします。

*当協会としても、コロナ禍の始まり以降、久々に人々に集まってもらうイベントに携わることができました。6 月 18 日にフェアフィールド・バイ・マリオット札幌内の FIKA CAFÉ Lagom で開催された「夏至祭 Fika」及び 6 月 16 日から 7 月 17 日までの見瀬理恵子北欧イラスト展「夏の大切な時間　"Ska vi　Fika？"」（同店との共催）です。*

*夏至祭 Fika は、FM 局 AIR-G'の番組 fika のパーソナリティ SATO さんも参加して、北欧音楽を聴きながらお茶を楽しむ催し。イラスト展では、イラストの展示だけでなく、ポストカードや北欧雑貨の展示販売も行われました。*

*いずれも、多くの北欧ファンを楽しませるとともに、同店に北欧的な雰囲気をもたらして、素敵な空間づくりにも貢献したと思われます。*

*ここでは、両イベントに携わった二名の会員からの原稿を掲載します。*

## 夏至祭 Fika に出演して

**今井　紀太**

**※ご挨拶**

皆様お世話になっております。北海道スウェーデン協会会員の今井です。この度北海道スウェーデン協会主催のイベント夏至祭 FIKA に、自分のバンド frihet での演奏で携わらさせて頂くことができました。その事について書かせて頂けたらと思います。

**※CAFÉ Lagom との出会い**

自分は昨年東京から札幌に移住しました。スウェーデンの音楽がきっかけでスウェーデンに携わる事となり、音楽だけでなく視野を広げて文化の観点からもスウェーデンと関わる事ができたらと、東京滞在中は積極的にスウェーデン大使館のイベント、スウェーデン関係のコミュニティーやイベント、スウェーデンに関するお店等に顔を出していました。そのおかげと言いますか、東京を出る前には東京におけるスウェーデンコミュニティー・ネットワークに関して大体を把握できている状態になっていました。

当別町・スウェーデン交流センターを中心とした、日本で２番目の規模を誇る北海道のスウェーデンコミュニティーと接点を持ちたいと思い札幌に移住をしてきましたが、正直な所、当別町・スウェーデン交流センター・北海道スウェーデン協会以外に関しては何も手掛かりが無い状態でした。

友人にお誘いを頂き、初めて CAFÉ Lagom に来た時には本当に驚きました。札幌にこんなにも立派な北欧 Café があるのか、と。そして Air-G での SATO さんが運営されている Fika という番組の存在も知り、もしかしたら札幌を中心として東京の人達からも一目置かれるような北欧コミュニティーが生まれるのかもしれないと思いました。

そういった経緯もあった為、今回のイベントに音楽で携わらせて頂くというのは本当に本当にありがたいお話でした。

frihet のメンバーと当協会横山理事長

**※夏至祭 Fika 本番**

元々frihet というバンドは、自分が Jazz の

セッションでノルウェーに６年居住歴のあるフミ君というクラリネット奏者と出会った事がきっかけでした。彼がハンガリーの伝統楽器ターロガトーを所有していた事から、何となくトラッド音楽をやってみようかという話でスタートしました。お互いトラッド音楽が専業ではない為、トラッド音楽をもっと自由な観点でアレンジしていこうという意味合いから frihet というバンド名になりました。今回 Lagom での夏至祭 Fika、そして翌日の当別町の夏至祭に演奏で携わらせて頂く事となった為、セットリストも伝統的なトラッド曲・夏至祭で有名な曲・夏を感じる曲・メロディーがきれいな曲を意識して選曲させて頂きました。当別町からも民族衣装もお借りする事ができ、少しでも夏至祭色を強く出せるように頑張りました。

当日の天候がかなり心配でしたが、Lagom のスタッフの方が作られたてるてる坊主のおかげで雨を回避する事ができました。開放感がある中庭にてとても美味しい北欧料理と演奏、そして SATO さんの素敵な MC、最高の時間でした。何よりも演奏終了後に北欧に興味を持って下さっているお客様と交流を持たせて頂く事ができたという事が、本当に貴重でありがたい時間でした。わざわざ旭川から来られていたお客様もいらっしゃいました。こんなにも北欧に興味を持たれている方々がいらっしゃるんだと、本当に嬉しかったです。今後もっともっと札幌の北欧コミュニティーは大きくなっていくのではないか、そんな予感がしました。

**※FIKA の重要性**

今回このイベントに参加させて頂きまして、改めて思った事があります。それは「FIKA の重要性」です。スウェーデンは音楽大国、本当に素晴らしい技術や能力をもったミュージシャン達が溢れています。自分も実際にそれを現地で見てきました。そういう素晴らしいミュージシャン達程、絶対に FIKA をするのです。FIKA で何でもないような話をするのです。セムラが解禁したらセムラを食べて、ザリガニパーティーをして夏至祭でフォークダンスを踊って、夏にはサマーハウスに移動してのんびり過ごして、クリスマスは家族を大事にする、スウェーデン人らしさを守る事をすごく大事にするのです。

演奏する筆者（右端）ら

自分が今音楽をやっていて凄く感じるのが、こういった FIKA のような時間が日本だとどんどん軽視されてきています。SNS が蔓延しているこの時代、重要な打ち合わせでも極力 SNS や ZOOM 等で済ませようとする傾向を強く感じます。多忙だと言ったもん勝ちみたいな傾向と言いますか。

でも日本でもこの人はミュージシャンとして素晴らしい音を出すなと感じる人は、大体たわいもないような事を話しながら人と飲んだりする事大事にしているように感じます。

自分はアナログを分かっている人こそが本当にデジタルを扱いこなせるのではないかと思っています。FIKA のような昔からあるアナログな伝統を大事にしているスウェーデン人だからこそ、様々な分野において世界に最先端の技術を提供している国になれているのかなと思います。

日本でも FIKA のような文化が定着していく事ができたらと、強く願っております。

## 夏の大切な時間　“Ska vi　Fika？”

**坂本　千鶴**

見瀬理恵子さんの北欧イラスト展がフェアフィールド・バイ・マリオット札幌 FIKA CAFÉ Lagom と北海道スウェーデン協会との共催で同 CAFÉ において 6 月 16 日より 1 ケ月間開催し、昨日終了しました。

開催にあたりこの企画を受け入れて頂きました FIKA CAFÉ Lagom 様、協会の横山理事長、目黒事務局長に心より感謝しお礼を申し上げます。

私事ではありますが、“FIKA”という言葉の文字と意味は私にとってスウェーデンをぐっと身近に、そして愛着を感じる「縁」があったような気がしています。

私が当別町に移住後、約 15 年間、街づくりに関わる場面で仕事をし、スウェーデンヒルズの最寄りのＪＲ太美駅舎内に町の案内所の立ち上げ準備、施設に常駐することになり、施設の愛称を提案する時、ここはスウェーデンヒルズに繋がる玄関口、誰もが読めて親しみを持ってコミュニケーションを感じるスウェーデン語の単語を探してその時、出会ったのが“FIKA”でした。スウェーデンの FIKA の文化と大切な時間や人との過ごし方を調べていくうちに私がイメージし、目指したい施設のコンセプトとほぼ一致し、その場所は“FIKA”と決まりました。

コロナ禍前は町に訪れるスウェーデン人も多くいて、この“FIKA”前で記念写真を撮っていく人もいました。この風景が親しまれるようになり１年後には当別町の人たちに自然に“FIKA”と呼んでもらえるようになり現在に至ります。

その頃、在日スウェーデン大使館の HP で紹介する見瀬理恵子さんのスウェーデンの四季折々のお菓子や食文化のイラストがメインの本「FIKA」を知り早速購入して大ファンになりました。

昨年 FIKA CAFÉ Lagom に行く機会があり、そこで FIKA する人達を見て、見瀬さんの「FIKA」がとてもマッチしてここでイラスト展ができたら素敵だなーと感じたのが始まりでした。私の思いを目黒事務局長に話す機会があり、その時 Lagom の中川マネージャーと繋いでくれ、実現となりました。

コロナ禍で、CAFÉ、事務局、作家さんと私、ほぼ全てメールでのやり取りで不安もありましたが 6 月 18 日に開催された夏至祭 FIKA の満員のお客様にも見てもらえオリジナル作品を購入する方もいて安堵しました。

イラスト（左の壁）の前に集まった会員たち
（左から４人目が筆者）

既に展示を見に行った友人からも好評のメールを頂いています。

最終日には協会の方達と鑑賞して、Fika して談笑しながら正に Lagom でした。

感謝を込めて 「SKA VI　FIKA?」

（白夜第８号　終わり）